

令和4年第1回定例会 建設環境委員会 閉会中特定事件審査経過報告書

建設環境委員会では、閉会中における特定事件「公園整備について」に関し、「智光山公園キャンプ場拡張整備事業及びこども動物園鳥飼育舎整備事業の進捗状況等について」を議題とし、令和4年2月10日（木曜日）午前中に現場2箇所の視察を行い、同日午後から審議を行う形で、閉会中特定事件審査を行いました。

以下に、その概要を示します。

説明の概要

智光山公園キャンプ場ワーケーション環境整備の工事は、Wi-Fi、電気、ガス、上下水道はじめソロキャンプサイト、シャワールーム、炊事場など、工種ごとにそれぞれ工事を発注し、16の工事を工程の調整を図りながら順次施工し、全て工事が完了している。

多岐にわたる工種を早期に完成させるため、一般競争入札や指名競争入札に加え、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた市内事業者の活性化に寄与するために、狭山市小規模工事受注希望者登録制度を活用し、要領に基づき登録された事業者から、狭山市契約規則等の規定に基づき受注者を決定し、実施したものである。

狭山市立智光山公園こども動物園鳥飼育舎新築工事についても、工事は完了している。

一般公開に向け、準備として、インコケージ室等に動物園職員が止まり木を設置し、その後、気候を考慮し、暖くなる4月以降にヨウムを引き取る予定。

ヨウムは繊細でストレスを受けやすい鳥であり、現在、自力採食できず、人の好みの差が大きいことから、飼育員が餌をくちばしに直接与えるなど、少しずつ信頼関係を築いていき、ある程度関係を築けたところで、日中は管理事務所内で、ほかの人に慣れるようにするなど、状況を見ながら、ならし飼育を進めていく。

一般公開は、ヨウムのならし飼育には期間を要することから、当面、既に飼育しているアオボウシインコ及びキホオボウシインコを、止まり木の設置後にならし飼育を行い、ヨウムに先行して一般公開するよう動物園と検討している。ヨウムについては、ならし飼育の状況を見ながら一般公開を検討する。

主な質疑（智光山公園キャンプ場拡張整備事業について）

○キャンプ場の今後の運用予定は。

●3月1日のオープンを予定。オープンの前に、プレオープン等の催物を考えていたが、新型コロナウイルス感染症の関係で中止した。オープン後は指定管理者と協議し、イベント等を開催したい。またSNS等を利用して、智光山公園キャンプ場がリニューアルされたことの周知し、利用率の向上を図りたい。

○現在の予約の状況は。

●供用開始を3月1日に予定しており、1月1日から市内扱いで予約が開始されている。2月1日から市外扱い予約も入ってきている。土日祭日等はほぼ埋まっている状況で、一部ソロサイトについては空きもある。

○利用料金制により、利用料が指定管理者へ全額入ることになるが、入った金額の中から一定の割合で市に戻すことは考えられるか。

●現在は考えていない。

○多目的トイレの入り口と扉の下が溝になっている。足を挟んでしまう可能性もあり危険性を感じられた。修繕箇所等、今後の不具合等の対処方針は。

●扉の構造上、塞ぐことは難しいが、管理人が板などを設置し対応するなど、指定管理者と協議し改善する。

○キャンプごみの処理についての考え方は。

●基本的に全て利用者に持ち帰ってもらう。これまでもその方法で運用しており、今後も継続したい。

○犬同伴サイトの汚物に対してルールはどうなっているか。

●利用者が、ごみとして持ち帰る。

○炊飯やバーベキューを行った際に出る燃えかすの処理は。

●基本的に炭や燃え残りの破片は、持ち帰りになる。灰については回収するところを設ける。

主な意見（智光山公園キャンプ場拡張整備事業について）

○当日に利用料として現金を徴収するようになっているが、現金の管理は適正に行うよう、指定管理者に申し伝えられたい

○入金状況を注視し市へ戻す検討をされたい。

○キャンプ場サイトの一区画を少し広げるのか、あるいは台数をほかに確保できないか検討されたい。

○キャンプごみは持ち帰りせず、現地での処理とされたい。

○チェックアウト時、管理人とチェックシートにより確認するシステムを確立されたい。

○雨天時、各サイトの水はけの改善対策を検討されたい。

○オープン後、利用者からの多様な意見、要望を吸い上げ、現場の声として大事にされたい。機能的な不具合等については真摯に対応されたい。

主な質疑（こども動物園鳥飼育舎整備事業について）

○ヨウムとはどんな鳥か。

●体長は30センチ程度。アフリカ中西部、熱帯雨林に生息する鳥で、寒さには弱い。

○ヨウムを飼うことになった経緯と今後の対応は。

●狭山市立こども動物園があるということで、ヨウムの飼育者が寄附を申し出た。しかし、飼育するための飼育舎が当動物園にはないため、建設費用も含め6,000万円の寄附行為があった。それを予算に繰り入れ鳥飼育舎を整備した。ヨウムの引き取りは、暖かい時期になってから行う予定。そこからは、

ならし飼育等を行い一般公開する。

○熱帯雨林で育ったものが狭山市へ来て平気なのか。

●生息地が熱帯雨林であることから、飼育にあたりエアコンにより温度管理し対応する。

○飼育の方法は確立されているのか。

●日本で繁殖は事例がないと聞いている。かなり難しい飼育なので確立というところまでは及んでいない。

○希少動物で、絶滅危惧種ではないのか。

●ワシントン条約で取引が制限されている。絶滅のおそれのある野生動物の種に位置づけられている。

主な意見（こども動物園鳥飼育舎整備事業について）

○寄付されるヨウムは絶滅危惧種。神経質でまだ23歳の若鳥なので、丁寧に飼育し、長く狭山市で皆さんに愛される鳥として過ごさせてほしい。